

大切な人ががんになったら どうしたらいいの？

まわりの人の支えが大切

がんになると、いろいろな不安や痛みを感じることがあります。また、患者さん自身だけでなく、その家族も同じように不安をかかえることがあります。がんになっても自分らしく生活するために、多くの支えが必要です。今、がんを経験した人たちによる支え合いの活動（ピアサポート）が広がっています。

もしも、自分の身近な人ががんになった場合、その人やその家族にどのように接したらよいか、どんなことができるかなど、考えてみましょう。

★がん患者さんの気持ちや家族の気持ちを知るために次のマンガを読みましょう。



本人の体験談

小学2年生のある日
ピアノの練習で左手の音がしつかり
出ないことに気がつきました



中学1年の終わりに、
まひがひどくなってきたので
検査をしたら、また頭の中に
がんができていたことが
わかりました



この時、初めて自分は
病気が「がん」であることを
知りました

つらい時もありましたが、
毎日明るく笑って過ごしていたら、
たくさんのお友達がいました



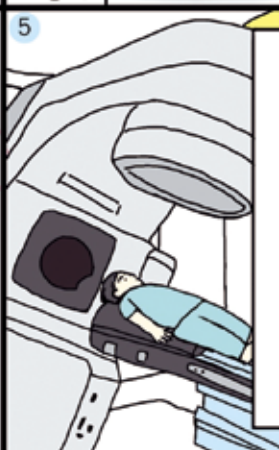
がんになった子ども達や、
家族ががんになった子ども達も
集まって、不安や悩みを話せる
場所をつくる活動を始めました

大きな病院での検査の結果、
脳腫瘍という頭の中にがんが
できる病気であることが
わかりました



頭の中に悪いものがあるから
お薬で治すんだよ

中学2年生の1年間学校を休み、
前よりも強い抗がん剤治療を
5回と放射線治療を受けました



春からは大学生になります

自分の病気の経験を活かして
勉強し、病気で苦しむ子や家族の
ためにできる活動を広げていきたい
と思います



小学2年生の3月から
3年生の7月まで学校を
休み、抗がん剤治療を3回



放射線治療を行って
学校に戻ることが
できました

中学3年で学校に戻ったとき
副作用で髪が抜けたまま、
左側の麻痺がひどくなったので、
足に装具をつけていました



ただ、周りの友達には誰も
「面白かったり」「いじったり」
することはありませんでした

「がん」について、わかったことを書いてみよう。

自分やおうちの人の健康のためにできることも書いてみよう。

やってみよう!

- ☐ 「がんについて分かったこと」を友達と話し合ってみよう
- ☐ 「健康のためにできること」をおうちの人に伝えよう
- ☐ おうちの人のがん検診を受けたことがあるか聞いてみよう

できたら
チェックしよう!

